

神奈川県人口ビジョン・ 第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂方針

令和6年11月6日
神奈川県地域政策課

神奈川県人口ビジョン

1 現状の「神奈川県人口ビジョン」

■神奈川県人口ビジョンとは

- これまでの人口動向を分析し、克服すべき課題とその解決に向けたビジョン等を将来展望として広く県民、企業、団体、市町村などと共有するために策定したもの
- 平成28年3月策定／令和2年3月改訂

■構成

第1章 人口分析

1 人口動向分析

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、長期的な人口動向や年齢階級別人口移動などを分析

2 将来人口分析

今後予測される人口減少が県民生活にどのような影響を与えるかを考察するため、県総合計画における将来人口推計などをもとに分析

第2章 将来展望

1 克服すべき2つの課題

第1章の分析結果を踏まえ、人口問題の観点から中長期的に克服すべき課題を整理

2 3つのビジョン

克服すべき課題を解決するためのビジョンを整理

3 人口の将来展望

克服すべき2つの課題が解決し、3つのビジョンが実現した場合（出生率が回復し、転出超過の抑制が実現した場合）の将来人口のシミュレーションを実施

人口動向分析の分析項目

長期的な人口の動向分析	① 総人口の推移
	② 年齢3区分別人口の推移
	③ 自然増減と社会増減の推移
	④ 出生数と死亡数の推移
	⑤ 転入者数と転出者数の推移
	⑥ 地域政策圏別人口の推移
	⑦ 外国籍県民の推移
出生動向分析	① 出生数・合計特殊出生率の推移
	② 平均初婚年齢の推移
	③ 未婚率の推移
	④ 希望出生率
人口移動分析	① 東京都に対する人口移動の状況
	② 地域ブロック別の人口移動の状況
	③ 年齢階級別の人口移動の状況
	④ 地域政策圏別の人口移動の状況
雇用・就労分析	① 通勤先等に関する状況
	② 通勤時間に関する状況
	③ 男女別産業別就業人口の状況

2 神奈川県人口ビジョン改訂の考え方

■人口ビジョン改訂の方向性

人口ビジョンとは、①これまでの人口動向を分析し、②克服すべき課題とその解決に向けたビジョン等を将来展望として広く共有するもの

⇒①人口分析、②将来展望の2点を柱とする（現行人口ビジョンと同じ）

■改訂の中身

①人口分析

➤ データの最新化

- 最新の統計データ、将来推計などを踏まえ、各種データを更新
- 令和6年度実施の県民意識調査結果の反映（希望出生率の最新化など）

➤ 近年の人口動向を踏まえた分析項目の検討

（近年の注目すべき動向）

- 本県総人口の減少
- 出生数・合計特殊出生率の大幅な低下（過去最低を更新）
- 人口戦略会議による「消滅可能性自治体」の議論

②将来展望

➤ 克服すべき課題とその解決に向けたビジョン

- 克服すべき課題と解決に向けたビジョンは長期的な視点に立って定めたものであることから、人口分析で劇的な変化がない限り方向性は維持

➤ ビジョンが実現した場合の将来シミュレーション

- 最新のビジョンを踏まえて出生率、純移動率の仮定を見直したうえで、最新のデータを用いて将来人口のシミュレーションを実施

3 近年の人口動向を踏まえた分析項目の検討

【注目すべき動向①】 本県総人口の減少

<近年の概況>

- 2021年から人口減少局面に転じる（総人口のピーク時期はこれまでの推計通り）
- 地域政策圏ごとの人口の傾向はこれまでと同じ（三浦半島地域、県西地域では人口減少が続く）
- 県央地域、湘南地域では間もなく、川崎・横浜地域でも2030年頃には人口のピークを迎える見込み

<これまでの人口ビジョン>

- 全県では総人口と年齢3区分別人口の推移を示している
 - 地域政策圏別では総人口の推移のみ示している
- ⇒ 地域政策圏ごとの年齢構成の状況を人口ビジョンで把握できていない



<今回人口ビジョンの対応>

- 地域政策圏別に5歳階級別人口の推移を分析
- 参考図表として生まれた年代別の人口の推移を地域政策圏別に分析

3 近年の人口動向を踏まえた分析項目の検討

【注目すべき動向②】 出生数・合計特殊出生率の大幅な低下

<これまでの人口ビジョンでの分析>

- 出生数・合計特殊出生率の推移から、全国に比べ本県の合計特出生率が低い
- 平均初婚年齢の推移、男女別・年代別未婚率の推移から、平均初婚年齢の高止まりによる晩婚化、40代未婚率の上昇による非婚化

<分析の課題>

- 合計特殊出生率が各年齢の出生率の合計であるため、母の年齢別の出生動向や第2子以上の出生が減少しているのか、子どもを生まない人が増加しているのか、合計特殊出生率からは分析不可
- 前回人口ビジョンでは、20歳代、30歳代の未婚率が若干低下傾向にあったことから、これまでとは異なる傾向が表れる可能性



<今回人口ビジョンの対応>

- 母の年齢別や出生順位別に出生の動向を分析
- 平均初婚年齢・未婚率データの精緻化

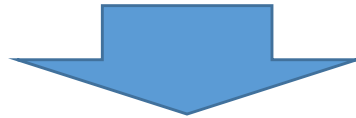
3 近年の人口動向を踏まえた分析項目の検討

【注目すべき動向③】人口戦略会議による「消滅可能性自治体」の議論

<消滅可能性自治体の定義>

- 社人研「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」をもとに、若年女性人口が30年間で50%以上減少自治体を「消滅可能性自治体」と定義

⇒ 「消滅可能性自治体」が若年女性人口の動向に注目した議論



<今回人口ビジョンの対応>

- 地域政策圏別に若年世代に注目した転入・転出の詳細な分析

4 人口ビジョン構成案

■全体構成（案）

第1章 人口分析

1 人口動向分析

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、長期的な人口動向や年齢階級別人口移動などを分析

2 将来人口分析

今後予測される人口減少が県民生活にどのような影響を与えるかを考察するため、県総合計画における将来人口推計などをもとに分析

第2章 将来展望

1 克服すべき2つの課題

第1章の分析結果を踏まえ、人口問題の観点から中長期的に克服すべき課題を整理

2 3つのビジョン

克服すべき課題を解決するためのビジョンを整理

3 人口の将来展望

克服すべき2つの課題が解決し、3つのビジョンが実現した場合（出生率が回復し、転出超過の抑制が実現した場合）の将来人口のシミュレーションを実施

○新 巻末資料（又は別冊資料）

1 県民意識調査の結果

希望出生率の算出に当たって行った調査結果の概要（当初版の県人口ビジョン巻末資料のイメージ）

2 人口動向分析の詳細

本文では掲載できない詳細データや参考図表など

4 人口ビジョン構成案

■人口動向分析の構成（案）

(1) 長期的な人口の動向分析

①総人口と年齢3区分別人口の推移

1920年以降の県総人口を示し、長期的な人口の推移を示す

- ・図表1 総人口と年齢3区分別人口の推移

②自然増減と社会増減の推移

1955年以降の自然増減数と社会増減数を示し、自然増減・社会増減の長期的な推移を比較

- ・図表2 自然増減数と社会増減数の推移

③出生数と死亡数の推移

自然増減の要素である出生数と死亡数の長期的な推移を示す

- ・図表3 出生数、死亡数と自然増減数の推移

④転入者数と転出者数の推移

社会増減の要素である転入数と転出数の長期的な推移を示す

- ・図表4 転入者数、転出者数と社会増減数の推移

⑤地域政策圏別人口の推移

1980年以降の地域政策圏別人口を示し、各地域の長期的な推移を示すとともに、地域ごとに傾向を比較

- ・図表5 地域政策圏別人口の推移
- ・図表6～10 年齢5歳階級別・地域政策圏別人口推移
- ・図表11 人口減少地域と消滅可能性自治体

⑥外国籍県民の推移

国籍別に県内に在住する（住民基本台帳上の）外国人の推移を示す

- ・図表12 外国人数の推移

下線は新たな
分析事項

4 人口ビジョン構成案

■人口動向分析の構成（案）

(2) 出生動向分析

①出生数・合計特殊出生率の推移

1970年以降の出生数・合計特殊出生率を示し、出生数・合計特殊出生率の長期的な傾向を示す

- ・図表13 出生数・合計特殊出生率の推移

②出生順位別出生数の推移

出生順位別に出生数の推移を示し、出生数の減少の特徴を分析

- ・図表14 出生順位別出生数の推移

③年齢別出生数の推移

年齢別出生数の推移を示し、母の年齢に着目して出生数の減少の特徴を分析

- ・図表15 年齢5歳階級別・出生順位別女性千人当たりの出生数
- ・図表16 年齢5歳階級別女性千人当たりの第1子出生数の推移
- ・図表17 年齢5歳階級別女性千人当たりの出生数の推移

④地域政策圏別子ども女性比の推移

地域政策圏別に0～4歳人口を20～44歳女性人口で割った値（子ども女性比）を示し、地域ごとの出生動向を分析

- ・図表18 地域政策圏別子ども女性比の推移

⑤平均初婚年齢の推移

1950年以降の平均初婚年齢を示し、長期的な傾向を示す

- ・図表19 平均初婚年齢の推移
- ・図表20 男女別・年齢5歳階級別初婚年齢分布

⑥未婚率の推移

1985年以降の男女別・年代別未婚率の推移を示し、長期的な傾向を示す

- ・図表21 男女別・年齢5歳階級別未婚率の推移
- ・図表22 生まれた年代別・年齢5歳階級別未婚率

⑦希望出生率

県独自の調査により判明した希望出生率を解説

- ・図表23 希望出生率

4 人口ビジョン構成案

■人口動向分析の構成（案）

(3) 人口移動分析

①東京都に対する人口移動の状況

東京都に対する神奈川県、埼玉県及び千葉県の出出者数・転入超過数を図示

- ・図表24 東京都に対する周辺3県の2023年の転出入状況
- ・図表25 東京都に対する周辺3県の転出入推移

②全国地域ブロック別の人口移動の状況

神奈川県と全国の地域ブロック間の転入超過数を図示

- ・図表26 全国地域ブロック別の人口移動（転入超過数）

③年齢階級別の人口移動の状況

純移動率のデータから5歳年齢区分別の人口移動の傾向を分析

- ・図表27 年齢階級別純移動率
- ・図表28 男女別年齢階級別純移動率（1980年→85年と2015年→20年の比較）

④地域政策圏別の人口移動の状況

地域政策圏ごとに、地域政策圏/東京都等との転入超過状況、年齢階級別の社会増減、年齢階級別・地域別転出入を示す

- ・図表29・35・41・47・53 地域政策圏別の人口移動（2023年）
- ・図表30・36・42・48・54 年齢5歳階級別の社会増減（2023年）
- ・図表31・37・43・49・55 年齢5歳階級別・地域別転出入（2023年）
- ・図表32・38・44・50・56 若年世代の転入・転出・転入超過数の推移（2012～2023年）
- ・図表33・39・45・51・57 若年世代の東京都に対する男女別転入・転出・転入超過数の推移（2012～2023年）
- ・図表34・40・46・52・58 地域政策圏別年齢階級別純移動率

4 人口ビジョン構成案

■人口動向分析の構成（案）

(4) 雇用・就労分析

①通勤先等に関する状況

地域政策圏ごとに、通勤先の地域を図示

- ・図表59 常住地別従業地・通学地の割合

②通勤時間に関する状況

本県と全国の通勤時間を比較し、通勤の側面から働き方を分析

- ・図表60 通勤時間に関する状況（片道）

③男女別産業別就業人口の状況

本県の産業別の就業状況や特化係数を示し、県内で勤務する人材の特徴を分析

- ・図表61 地域別・産業別就業人口

4 人口ビジョン構成案

■将来人口分析の構成（案）

(1) 人口の将来予測（旧：人口減少社会と超高齢社会）

①人口減少社会の進展（旧：人口減少社会の到来）

新かながわグランドデザインでの将来推計により総人口、自然増減の将来見通しを示し、人口減少が加速していくことを示す

- ・図表62 出生数と死亡数の将来推計
- ・図表63 将来人口推計
- ・図表64 地域政策圏別の将来人口推計（中位推計）

②高齢化の進展

人口ピラミッドの将来推計（新かながわグランドデザインでの推計）や平均寿命の延伸傾向を示し、人口減少の中で高齢化がさらに進むことを示す

- ・図表65 人口ピラミッドの比較
- ・図表66 平均寿命の推移と将来推計及び平均自立期間の推移

(2) 人口減少及び人口構成の変化がもたらす影響

①経済への影響

県民経済の現状を示したうえで、今後、人口減少、人口構成の変化が経済に影響を及ぼすことを示す

- ・図表67 神奈川県県民経済計算の概要＜平成28年度・令和3年度比較＞

②医療・介護への影響

少子高齢化がさらに進展することで、医療・介護需要の増加に担い手となる人材不足が深刻化することを示す

- ・図表68 新かながわグランドデザインにおける年齢3区分別の将来人口推計（中位推計）

③地域社会への影響

人口減少が進むことで地域社会の維持が困難となることを示す

- ・図表69 神奈川県内の空家数・率の推移

4 人口ビジョン構成案

■将来展望の構成（案）

1 克服すべき2つの課題

人口分析を踏まえた人口問題という観点からの克服すべき課題を示す
※人口動向が劇的に変化したわけではないため、課題は現行と同じ

2 3つのビジョン

2つの課題を克服するための3つのビジョンを示す
※克服すべき2つの課題と同じく、3つのビジョンは現行と同じ

<現行人口ビジョンの2つの課題と3つのビジョン>

■克服すべき2つの課題

- ① 人口減少に歯止めをかける
- ② 超高齢社会を乗り越える

■3つビジョン

- ① 「合計特殊出生率」の向上（自然増に向けた対策）
- ② 「マグネット力」の向上（社会増に向けた対策）
- ③ 「未病」の取組による健康長寿社会の実現（超高齢社会への対応）

3 ビジョン実現時の人口の将来展望（シミュレーション）（旧：人口の将来展望）

(1) 県総人口の将来展望（シミュレーション）（旧：人口の推移と将来展望）

3つのビジョンが実現した場合（出生、転出入がビジョンで示した値となった場合）の将来人口についてシミュレーションし、3つのビジョン実現が人口減少対策に重要であることを示す

・人口の将来展望

- ✓ ビジョン1の実現 ⇒合計特殊出生率をビジョン1で示した年度に達成するように仮定
- ✓ ビジョン2の実現 ⇒社会増がビジョン2で示した規模を維持することを仮定
- ✓ ビジョン3の実現 ⇒（仮定するデータなし）

※ビジョン3が「超高齢社会への対応」をめざし、健康寿命の延伸を図ることとしているが、健康寿命は人口増減に影響がないため、人口シミュレーションの際に仮定値を設定する必要はない

(2) 地域政策圏別人口の将来展望（シミュレーション）

(1)の推計値の地域政策圏別の値を示す

5 改訂スケジュール（予定）

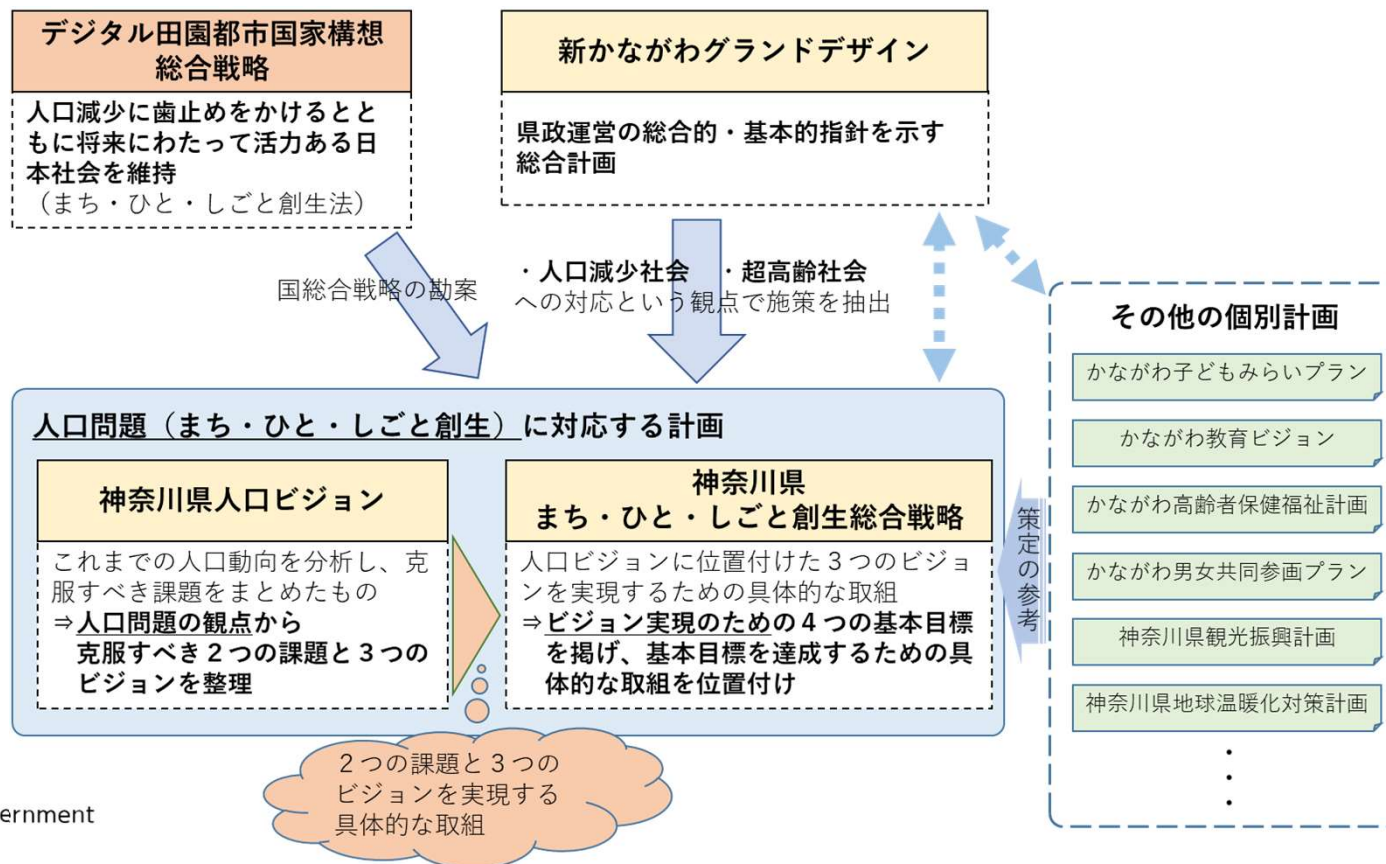
- 令和6年7月～8月 希望出生率調査の実施（委託調査）
- 8月～10月 改訂方針詳細の検討、人口動向、将来人口の分析作業
…人口動向、将来人口分析及び将来展望の最新化
- 10月 改訂方針等の市町村への説明会開催
- 11月 第1回地方創生推進会議開催
…「神奈川県人口ビジョン」改訂の途中経過報告／議論
- 12月～1月 「神奈川県人口ビジョン」改訂案策定
- 令和7年1月 第2回地方創生推進会議開催
…「神奈川県人口ビジョン」改訂案の議論
- 2月 「神奈川県人口ビジョン」改訂案 県議会報告
- 3月 「神奈川県人口ビジョン（令和7年3月改訂版）」公表

第3期 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 現状の「第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」

■総合戦略とは

- 人口ビジョンに位置付けた3つのビジョンを実現するための具体的な取組
⇒ **ビジョン実現のための4つの基本目標を掲げ、基本目標を達成するための具体的な取組を位置付け**
- 国総合戦略を勘案しつつ、人口ビジョンで整理した克服すべき2つの課題と3つのビジョンを実現するための具体的な取組をまとめたもの
- 新かながわグランドデザインから施策を抽出したほか、その他の個別計画を参考にKPIや取組等を位置付け



2 第3期総合戦略改訂の考え方

■改訂の必要性

- 総合戦略が国総合戦略や人口ビジョンをはじめとし、各種計画を勘案しながら取組やK P I等を位置付け
⇒ **勘案する各種計画の見直しに合わせて計画の整合性を図る必要**
- 第3期総合戦略を効果的に推進するに当たってはP D C Aサイクルを確立することが求められる
⇒ **地方創生推進会議による効果検証の結果をフィードバックし、必要に応じて取組の修正などを行う必要**

2 第3期総合戦略改訂の考え方

■改訂の方向性

<前提>

第3期総合戦略の計画期間中であることから、柱レベル（基本目標や中柱、小柱）での見直しは行わない

<改訂内容>

➤ 神奈川県人口ビジョンの改訂を踏まえた見直し

- 基本目標3数値目標「希望出生率の実現」目標値の見直し
- 人口動向に劇的な変化はなく、2つの課題と3つのビジョンの見直しは行わないため、総合戦略の大規模な見直しは実施しない

➤ 国総合戦略や各個別計画の見直し等を踏まえた目標値の見直し、主な取組の追加等

- 国総合戦略の動向は「地方創生10年の取組と今後の推進方向」（R6.6.10内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局/内閣府地方創生推進室）や今後の国総合戦略改訂を注視
- 各局所管の個別計画の見直しを踏まえた目標値の見直しを実施

➤ 地方創生推進会議や県議会意見の反映（主な取組の追加等）

- 地方創生推進会議や県議会での意見を各局へフィードバックしつつ、必要に応じて主な取組等を見直しを実施

(参考) 「地方創生10年の取組と今後の推進方向」の概要 (内閣官房/内閣府作成)

「地方創生10年の取組と今後の推進方向」の概要

令和6年6月10日
内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
内閣府地方創生推進事務局

前文

- ▶ 本年(2024年)は、地方創生の取組が本格的に始まってから10年の節目を迎える。
- ▶ 地域によっては人口増加等をしているところもあり、この中には地方創生の取組の成果と言えるものが一定数あると評価できる。
- ▶ しかしながら、国全体で見たときに人口減少や東京圏への一極集中などの大きな流れを変えるには至っておらず、地方が厳しい状況にあることを重く受け止める必要。人口減少や東京圏への過度な一極集中を是正するための対策は、我が国全体で戦略的に挑戦すべき課題であり、離島等における我が国領域等への影響といった危機感も持ちながら、「自然減」「社会減」それぞれの要因に応じて適切な対策を講じていく必要がある。さらに、人口減少等が大きな社会課題となっている諸外国の取組も踏まえることが有効。
- ▶ 地方創生に関する目標は、その達成状況等を踏まえ、目標年次などを変更しつつ、デジタルの活用も含めて施策の改善も図ってきたところであり、今後も時宜を捉えた対応が求められる。
- ▶ 小規模な自治体をはじめ、国によるきめ細かな支援を行いつつ、国民との信頼と対話の中で、地方創生に関する国民的な議論を展開していくことにより、人口減少や東京圏への一極集中等に関する認識を国民の間で広く共有しつつ、一人ひとりの多様な幸せ(well-being)につながる施策を推進していくことが求められる。

地方創生10年の取組・成果

- ・ 地方創生に関する地域の関係者の意識・行動の高まり
- ・ 各自治体による主体的な取組の推進(財政支援、人材支援、情報支援の活用)
- ・ 地方移住への関心の高まり、移住者数の増加
- ・ 人口に係る一定の成果 等

残された課題、新たな課題と今後求められる取組方向

(1)東京圏への過度な一極集中への対応

- ▶ 地方移住、企業の地方移転、地方大学・高校の魅力向上に加え、女性・若者にとって魅力的な地域づくりや、その他、男女間・地域間の賃金格差など、東京圏への過度な一極集中をもたらし得る諸要因を踏まえた検討、中枢中核都市等におけるゲートウェイ機能の向上、防災・減災、国土強靱化の取組の強化、分散型国づくり等との連携など

(2)少子化への対応

- ▶ 結婚や子どもを持ちたい希望をかなえるための政策を、特に未婚者を多く抱える大都市も含め、スピード感をもって実行、社会全体で子ども・子育て世帯を応援していく気運を高めていくための社会の意識醸成など

(3)地域の生産年齢人口の減少への対応

- ▶ 仕事と子育ての両立が可能な働き方の確立、高齢者や障害者も安心して働くことができる雇用環境の整備、多様性のある共生社会の実現に向けた検討など

(4)地域資源を生かし、付加価値を高める産業・事業の創出

- ▶ 地域資源の掘り起こし等に必要を生産者や中小企業に対するサポート、産業活性化と拠点施設等の一体的な整備による地域の稼ぐ力の向上、地域経済の内発的な活性化、海外製造業を含めた国内投資の促進に向けた関連インフラを含めた総合的な支援など

(5)地域における日常生活の持続可能性の低下などへの対応

- ▶ デジタルの活用や官民連携による日常生活に必要なインフラ・サービス(交通支援、買物支援、オンライン診療等)の強化、デジタル行財政改革との連携など

(6)都市部と地方との連携機会の拡大

- ▶ 農山漁村等での体験活動、地方における定住人口や交流人口の増加に向けた取組の推進、デジタルも活用した関係人口の増加に向けた取組の推進など

(7)大規模災害被害からの創造的復興に向けた貢献

- ▶ 能登半島の被災地におけるデジタルライフラインの整備など

(8)地方創生の取組に悩みを抱える自治体へのきめ細やかな支援

- ▶ オンラインも活用した自治体への人材支援、小規模自治体など伴走支援を必要とする自治体に対し、地方支分部局を含め、関係府省庁が連携したサポートの推進など

(9)地方創生の取組を加速化・深化するデジタル活用の更なる拡大

- ▶ 自治体のデジタル実装の質的向上、国と地方の実装の役割分担(作り込みから使いこなし)、デジタル実装の優良事例の掘り起こしとサービス/システムのカatalog化による発注コスト低減・横展開、環境や循環経済の効果可視化、障害者等に優しいコミュニケーション支援など

(10)地域・社会課題の解決に向けた規制・制度改革

- ▶ 国家戦略特区の取組の推進と成果の全国展開、地理的に離れた自治体が連携して共通の課題に取り組む「連携“絆”特区」の推進など

最後に

- ・ 人口減少に歯止めをかけ、東京圏への過度な一極集中を是正する目標の実現に向け、諸外国の取組も参考にしながら、我が国全体で戦略的に挑戦するとともに、人口減少下においても、希望を持って住み続けることができる持続可能な地域づくりを進めるため、従来の取組を超える新たな発想に基づく施策を検討・実行していくことで、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現する社会を目指すことが重要。

- ・ 今後、自治体、有識者をはじめ、国民との信頼と対話の中で、地方創生の推進に関する国民的な議論を展開し、人口減少や東京圏への一極集中等に関する認識を国民の間で広く共有しつつ、施策の検証や優良事例の横展開などを推進することで、それぞれの自治体が主体的に行う地方創生の取組を強力に後押ししていく。

3 改訂スケジュール

令和6年9月～10月	第3期総合戦略改訂方針の検討
11月	第1回地方創生推進会議開催 …第3期総合戦略改訂方針の議論
11月～1月	第3期総合戦略改訂案策定
令和7年1月	第2回地方創生推進会議開催 …第3期総合戦略改訂案の議論
2月	第3期総合戦略改訂案 県議会報告
3月	第3期総合戦略（令和7年3月改訂版）公表